



ニュース

一般社団法人
全国交通信号工事技術普及協会
第21号 平成28年 9月 8日

ごあいさつ

理事長 丹下 正彦



(元警察庁情報通信局長)

全信工は交通信号設備の工事や保守を適切に実施する工事従事者の技術力を向上させるとともに、業界の健全な発展を目指して活動してまいりましたが、発足以来7年目を迎えて、この5月23日に総会を開催し、無事執り行わせていただきました。

交通信号工事は多様な技術を複合した高度で複雑な技術であり、これ自体が一つの独立した技術分野であるべきであるとの認識のもとで、協会の重点施策として交通信号工事士の認定試験、技術講習会の開催、工事施工と保守の専門技術を網羅したハンドブックの編纂などの事業を着実に実施し、会員の方々の技術力向上に努めてまいりました。

しかしながら、まだまだ信号工事現場では、基本をおろそかにした単純なミスのほか、工事施工に関わる手続きの法令違反も見受けられております。

最近行政側からの要請もあり、広く工事関係者の注意を喚起するために、行政の専門家の方々にも講師になっていただいて現場作業に直結した工事施工の講習会を評判よく実施いたしました。

今後は、全国各地で、行政からの支援をいただきながら、信号工事の従事者にこのような講習会を実施すべく計画してまいりたいと思っております。

さて政府では重要な社会インフラの事件事故の多発を受けて、インフラの品質を確保するための施策を打ち出しております。全信工もこれを受けて「交通信号工事事業品質向上研究委員会」を設置いたしました。委員には、学識経験者、行政の専門家、交通信号制御機メーカーの専門家等の参画を得て、全信工の施策の見直しと改善方策、信号工事業界が抱える工事施工の安全性の向上方策、工事施工や積算の標準化などを検討してまいります。今後はこの委員会の参加者を全国的に広げ、各方面の方々から貴重な意見を集積できるよう配慮いたしたいと思っております。

この委員会の成果は必ずや協会の業務運営を効率化し、社会的な評価を高め、信号業界の発展に寄与し、会員の皆様の期待する協会に変身できる可能性があるものと確信しており、このような協会の活動に引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年度定時総会の開催

平成28年5月23日(月)東京都台東区 株式会社オーラムにおいて、平成28年度定時総会と懇親会を開催しました。定時総会に先立ち、齋藤コンサルティング代表齋藤智恵氏の講演が開催され、会員等50名以上の協会員が受講されました。

定時総会は、丹下正彦理事長の挨拶の後、平成27年度事業報告、収支決算報告及び監査報告が承認されました。

続けて平成28年度事業計画及び収支予算についての事務局からの報告があり、最後にハンドブック編纂に尽力されたミナモト通信(株)、(株)東管、日信電子サービス(株)に感謝状を贈呈し無事定時総会が終了しました。

定時総会終了後、懇親会が開催され、協会員の親交を深めました。定時総会で配付された資料は、ホームページでご覧いただけます。



総会風景

特別講習会の開催

警視庁の依頼を受け、交通信号工事を適正に実施するために必要な関連法令の遵守及び施工技術能力の向上を図るため、平成28年5月10日東京都文京区本郷の全水道会館において「特別講習会」を開催いたしました。

講習内容は、後述のとおりですが、交通信号工事品質向上のため、現場代理人のスキルアップ、現場従業員の作業ミスの防止を目的とし、交通信号工事を適正に実施するために必要な施工技術の向上、関連法令を遵守することに重点をおいた講習を行いました。

特に、「適正施工のために」では昨年の不適切工事の内容が紹介されるとともに、その対策についても詳しく説明がありました。

本講習会の受講者は、130名を超える大規模なものとなり、講習後のアンケートでは[非常に有益であった。]という意見が多数寄せられ、当協会として今後、この講習会を全国に展開し、会員等の適正工事の実施及び技術向上のため活動を行っていく予定です。



警視庁交通部交通管制課管理官 宮田晋氏

講習内容

- 「工事施工上の留意点」 警視庁交通部交通管制課管理官 宮田晋氏
信号機工事の特徴(安全の配慮)・(公共工事)、信号工事の課題とその対応(施工側)、信号機工事の留意事項、信号機工事の課題とその対応(発注者側)、信号機工事の適正化に向けた対応
- 「官公庁等手続きと現場代理人」 元警視庁交通部交通管制課 山崎友義氏
 - ・ 官公庁等への手続き
契約後の書類の作成と提出、現場照査、監督員との打ち合わせ、施工計画書及び承認申請書の提出、施工開始及び工事施工中の提出書類、工事竣工後受検のチェック
 - ・ 現場代理人の責務
現場代理人の選任等に関する通知、現場業務の経験を積んでいる、顧客の体制・内容を知ること
- 「道路使用許可と安全対策」 元警視庁交通部交通規制課 三保康人氏
書類手続き、工事帯の設置について
- 「労働安全衛生法と施工上の事故防止」 全信工顧問 坂東喜行氏
危険予知トレーニング、労働安全衛生法、コンプライアンス
- 「適正施工のために」 低電圧教育インストラクター 大西邦法氏
 - ・ 事案分析と考察
信号機等の工事における不適切事案 活線作業上のミス、施工不良・品質不良、法令違反原因として各県で異なっている工事仕様と標準工法の未徹底
 - ・ 作業ミス対策
作業ミス(ヒューマンエラー)を少なくする方法
閃光・機器破損を発生させないために断線・接続順の徹底
端子台へのマーキング、接続場所の段ずれを防ぐための行先確認の徹底
線の切断・接続は必ず1本ずつ行い、相手先の絶縁処置の実施
接続後は必ず1周期以上信号機の動作を確認
複雑な配線は、テープ等でケーブルに記入
 - ・ 提案
活線作業の抑制
すべての配線の再結線
ケーブルの色を用途別に統一

交通信号甲子園の開催

交通信号工事甲子園(関東版)

平成28年5月18日、埼玉県児玉郡にある株式会社カンドー埼玉工場内において、第2回「交通信号工事甲子園(関東版)」を開催しました。

本年度は、警察関係来賓として警視庁交通部交通管制課管理官宮田晋様、公益財団法人日本交通管理技術協会参事野田素良様のご出席をいただきました。

競技は、選抜8チームが「信号柱の建込み」、「信号ケーブルの配線及び結線」、[灯器の取り付け]、「点灯確認」を実施し、その工事内容について「安全性」、「正確性」、「迅速性」について競いました。

本年は安全性に重点を置いた競技としました。

35度を超える炎天下の下一人の事故者もなく無事に終わることができました。



競技風景

交通信号工事甲子園(防災版)

平成28年6月6日、三重県菟野町(株)シンコーワ敷地内において第4回「交通信号工事甲子園(防災版)」を開催しました。平成23年度に三重県警察本部と締結した「災害協定」に基づく訓練の一環でもあり、競技は三重県仕様で行われ、適正で円滑な災害復旧を目指すものです。

警察関係来賓として三重県警察本部交通部参事官(交通規制課長)原政美様、交通管制官大越博行様、管制運用システム係長川村知広様の出席をいただきました。

また、(株)シンコーワは、菟野町と「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結していることから菟野町長石原正敬様、菟野町禰区長山口香様の出席もいただきました。

今年度から昇降柱競技大会を新たに加え、信号柱への昇降技術を競いました。

また、今回は競技会に初めて女性が参加し、人手不足解消のため女性進出が有効であることが示されました。

なお、来年の競技会は、5回目という節目であることから、過去の優勝チームによるペナント争奪戦を計画しています。



競技風景

交通信号工事士更新講習会の開催

平成28年度の更新講習会が右表の日程で開催しました。開催場所は12会場で延べ13回開催され、310名が受講されました。

今回の内容は昨年に引き続き、講習内容は「信号制御機の構成と機能・性能について」、「交通信号制御の基礎知識」、「安全管理の方法」でした。

交通信号工事士の資格を平成23年度に取得された方は、平成28年度で資格が失効してしまいます。今年度の更新講習を受講できず資格が失効する方は至急事務局へ連絡していただくようお願いいたします。

また、今後とも受講生の皆様が現場で役立つ資料の提供に心掛けていきたいと考えています。

開催日	開催会場	受講者数
4月13日	広島市南区民文化センター	15
4月15日	長崎県勤労福祉会館	20
4月16日	福岡医療専門学校	11
4月19日	大阪府社会福祉会館	28
4月20日	岐阜産業会館	12
4月22日	石川県勤労者福祉会館	8
5月11日	北明電気工業株式会社	2
5月13日	仙台市民会館	31
5月17日	JAM金属労働会館	69
5月20日	新潟県民会館	8
5月24日	JAM金属労働会館	43
5月25日	(一財)横浜市教育会館	23
5月27日	C S A 貸会議室	40
	合計	310

オーストラリア視察記

昨年マレーシア&シンガポールに引き続き今年度は、オーストラリアである。今回も高田日本大学名誉教授の視察に同行し、総勢15名のメンバー。訪問した都市はシドニーとメルボルンである。

オーストラリアは、1788年からイギリス人による移民が始まり、1828年イギリスの植民地となった。1901年独立を果たしたもののイギリスへの忠誠心は強く、第一次、第二次大戦とも連合国側で参戦している。

面積は769万Km²日本の約20倍、人口は2,150万人日本の約1/6である。また経済的には、世界で最も裕福な国の1つで世界第12位の経済規模・国民所得は世界第5位である。

市内の信号機は美装柱を使用しており、配線は地中化されている。

また、一方通行が多用されている。信号機の運用については、歩行者の横断秒数が、道路幅員が15メートル以上で、歩行者の青時間は5秒程度、その後歩行者の点滅が15秒程度で赤となる。また、押釦を押さない限り歩行者灯は青とならない。押釦の下に注意書きがあり、歩行者灯が点滅したら横断禁止、そして横断者は速やかに横断を終了することと書いてあった。

[Transport Roads&Maritime Service(RMS)視察]

ニューサウス ウェールズ州政府の組織で道路管理、交通管理等輸送に関する業務を行っている部門である。オーストラリアの信号制御はSCATで、交通量のセンサーは、停止線の手前に埋められたループコイルで車両を検知し信号機を制御しているとのことであった。

[AMSA CONSULTING担当者の説明]

オーストラリアを含め各国から交通等のコンサルを業務としている会社である。交通計画、道路の安全性等について提案をしている。例えば、自転車道の設置、学校での安全教育、駐車対策等である。

担当者との質疑応答の抜粋

Q. 交通管理にどのように携わっているのか教えてほしい。

⇒私たちの会社は交通の計画、特に公共交通の計画、道路の安全性も私たちの専門です。

Q. RSAの資格について教えてほしい。

⇒Road Safety AuditsがRSAの意味です。私たちのコンサルタントはレベル3で一番高いレベルを持っています。特に都市のフリーウェイとか郊外のフリーウェイ、道路ネットワークなどのプロジェクトを手掛けております。また、国際的にも道路の安全性の仕事に係っており、アジアの各地域の開発も手掛けています。特筆すべきことですが、オーストラリアでは、オーディティング(監査)というものが非常に発達していると思います。設計のどの段階であっても、プロジェクトのどの段階であっても、工事のどの段階であってもきちんと監査をし、非常にうまくいっていると思います。

Q. 信号制御にはこういった資格は必要ですか？

⇒シドニーではRMS傘下のトラフィックマネジメントセンターの専権事項です。シドニーではSCATモデルで信号機を管轄しています。

[VICROADS視察]

ビクトリア州政府機関の一つでTransport Roads&Maritime Serviceと同様の業務に携わっている組織である。メルボルンは、計画都市で道路が格子状に作られており、人口は450万人、毎週2千人の移民が入国しているとのことであった。その道路の80パーセントにはトラム(路面電車)が走っており、市内はすべて無料で乗車できる。

市内の交通信号機の運用は、トラムの運行を中心に行っているため低サイクル長で運用されており、トラムが道路中央に設置された各駅から出発しやすいように運用されている。



信号機と規制標識



標準的な美装柱



歩行者灯の説明版

お問合せ先

〒130-0026 東京都墨田区両国二丁目1番4号
一般社団法人全国交通信号工事技術普及協会事務局
TEL:03-6659-3586 FAX:03-3846-5582
URL: <http://www.zenshinko.jp> E-mail: info@zenshinko.jp